

令和 6 年度 第 1 回瑞浪市教育委員会点検評価委員会（要点筆記）

日時：令和 6 年 5 月 28 日（水）13：30～15：55

場所：市役所 4 階 全員協議会室

出席者

委員 浅沼克郎、正村京司、鰐部実、伊藤孝一、北原謙介、西尾正代

事務局 事務局長、教育総務課長、総務係（2名）

説明者 教育総務課施設管理係長、学校教育課教育支援係長、学校教育課教育推進係長、
学校教育課家庭教育係長、学校給食センター管理係長兼調理係長、生涯学習課長、
生涯学習課生涯学習推進係長

司会：教育総務課長

◇ 事務局長あいさつ

こんにちは。今年度、教育委員会事務局長を拝命しております浅井と申します。どうぞよろしく申し上げます。

点検評価委員会は、令和 5 年度に「瑞浪市教育振興基本計画 みずなみ教育プラン」に基づいて執行されました様々な事業について、評価をいただく会です。

令和 5 年度で、この計画は 10 年間で節目を迎え、令和 6 年度より新しく第 2 期の計画がスタートしている状況です。

市の組織再編によって家庭教育を除く社会教育、文化、スポーツ、芸術の部分については、新しく市長部局に移管されたところですが、先ほど申し上げましたように令和 5 年度事業についての評価ですので、移管部分も含めた、令和 5 年度の様々な事業について評価をいただきたいとおります。

また、評価をいただきましたところについては、それをしっかり受け止めさせていただき、市長部局に移管した部分については市長部局で、教育委員会における部分については教育委員会で、また連携はしっかりととっていきながら、令和 6 年度以降の事業にしっかりと反映していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

いずれにしろ本日頂いた様々な御意見というのは、子どもたちの未来につながる大事なご意見だと思っておりますので、忌憚ないご意見をよろしく申し上げます。

1 委嘱状交付

任期：令和 6 年 5 月 1 日から当該年度の点検評価に関する審議が終了した日まで
委員全員に委嘱状交付。

2 自己紹介 委員名簿

3 委員長、委員長職務代理者の選出

委員長：北原謙介氏 委員長職務代理者：西尾正代氏

4 制度の概要説明 事務局

5 議 事

令和6年度（5年度事業）みずなみ教育プラン後期計画の施策の評価について

【基本目標1】

教育総務課施設管理係長、学校教育課教育支援係長、学校教育課教育推進係長、

学校教育課家庭教育係長、学校給食センター管理係長兼調理係長説明

施策1	幼保一体化による就学前教育の充実
委員	<p>保幼小中という繋がりの中で、このつながりが非常に大事だと思っています。また、その重要性を考えて色々な手を取ってくださっていると感じました。特に小学校1年生の段階で、自由な発想や、発言をしたり活用したりすることができる豊かな学力を含めて非常に重要と思っています。</p> <p>就学前にどんな力をつけてきているかというようなことの具体的な姿を小学校の先生方はどのように確認していますか。</p> <p>また、家庭教育学級リーダー研修の成果で、どんな姿を見られて学び合えるようになってきたとしていますか。</p>
係長	<p>幼稚園の様子を小学校1年生の担任が見学に行くというようなことを昨年度より行っています。また、幼稚園の5歳児の子どもたちが、小学校に訪問して児童との交流を図っています。「幼児期のうちに育てたい10の姿」というものについて、小中学校の校長会や教頭会でも就学前担当が説明させていただき、そういう視点を持ってお子さんたちを見る姿が、小学校の教師のほうに、昨年1年だけでも随分と見られるようになってきたと思います。</p> <p>家庭教育学級リーダー研修の成果については、確認してご報告します。</p>
委員	<p>保育士不足で少ない人数で園を運営していると聞いています。教育委員会は確かに一生懸命やってみえるというのはここで確認をさせていただいていますが、園のほうの負担というのはどの程度なのか把握していますか。</p>

係長	先生が足りなくて、とても大変だというお話は聞いていますが、幼稚園と小学校との交流によって負担が大きくなったというお話は聞いていません。
委員	3月まで学校現場にいたのでわかりますが、園のほうの負担がとても大変なので、学校の先生が年長さんの遊びを通して10の力をつけるという活動を見せてもらうことについては、わざわざ機会を設けないように、園評議委員会を活用しながら、幼小で負担にならないようにしていました。
委員	「幼保一体化における就学前教育の指導推進」が重点取組となっておりますが、特にアピールしたいことがありますか。
係長	今までも幼稚園のほうは小学校につなぐためのアプローチカリキュラムや、小学校が受けてのスタートカリキュラムは各園各校でつくっていましたが、今まで以上に幼稚園と小学校で連携をし、プログラムを理解しあって、その上でお子さんを見るという交流が昨年度、随分機会が増えたと感じています。 また、中学校の管理職の先生方にも知っていただく機会を設けさせていただくことで、15歳までの一貫した教育を目指して何歩も前進したと思っています。
委員	5年度を取組の特徴がよく見えたと思いました。
委員	コロナも明けて5年度は大分歩みだしがあったと思います。
委員	働き方改革や待遇改善などで、現場の先生方はかなりプレッシャーがかかっている気がしますが、しっかりやっけていただいていると思います。
評価	委員会評価 A
施策2	確かな学力の育成
委員	今は、読書活動というとタブレットや携帯で読む電子書籍がありますが、そういったものの扱いは、このデータとして特別配慮されていますか。
係長	学校図書館にこだわりなく、子どもたちの判断ですので、家庭で電子書籍を読んでもらえば、それを含めています。
委員	「できる・わかる授業の充実」「外国語活動の充実は」今年度の重点の取組事業です。特徴を教えてください。
係長	点数は全国的に見ても高い傾向にありますが、子どもたちが教科の面白さや授業を楽しんでいるのかということまでを大事にしないといけ

	ないと考え、「事業がわかる」「好き」「自分にあっている」という部分を調査の中から拾い、子どもの様子を見ながら授業を進めていくように教員に伝え、授業の改善に努めています。
委員	タブレットの活用について、タブレット支給されて何年か経ち、授業参観で見ても子どもたちは使いこなせると感じますが、先生の方が大変かと思います。先生方は、タブレットの講習などをされていますか。
係長	昨年度は、市外から移動してきた先生にchrome端末に慣れていただく研修、夏休みには、授業で使える研修を2講座開催し、先生方の使い方についてもアップデートして行っています。
委員	内容的にはA評価でいいと思いますが、読書をする時間についての数値の目標を明確に上げていて、達成できていないためB評価になると思います。
委員	平日30分以上読書をする目標値を35%にした理由は何ですか。
係長	R4年度の数値が33.6%とありますが、子どもたちの読書離れが言われていることもあり、平日30分を何とかもう少し増やせないかということで、昨年度よりも少し上のところを目指しました。
委員	教育委員会としては、35%という目標は高い数値と考えていますか。
係長	はい。
委員	目標は達成していませんが、前年よりも1%上がっていてA評価でいいと思います。
委員	個人差がかなりあると思いますが、その辺の指導はされた上ですね。
係長	個に対する指導は、学校現場では難しいです。「本を読もう」と呼びかけを小学校でも中学校でも盛んにしてくださっています。
評価	委員会評価 A
施策3	特別支援教育の充実
委員	支援員100%配置となっていますが、支援員の必要数はどのような数ですか。
係長	学校の要望や実態等から教育委員会で精査して、R5年度は33名の支援員をつけていただくこととなりました。
委員	各学校が要望した人数ではありませんか。
係長	はい。
委員	足りるのか足りないかというのは、判断する人によって違うので、教

	育委員会の判断なのかなと思っていました。100%と書いてあるので、要望がかなっているのかと思って質問をさせていただきました。
委員	学校によって「学習支援員」という言葉を使っているところと「学業支援員」という言葉を使っているところがあると認識していますが、正しくはどちらですか。
係長	「学業支援員」です。
委員	課題に「支援が必要な児童生徒の実態を的確に把握していく必要があります。」とありますが、打合せノートや連絡ノート等の手だてが考えられていて、すごくされているように見えますがまだ足りないですか。
係長	できれば引継ぎを対面で担任の教師に伝えられると一番いいのですが、そういう時間もなかなかない状態もありますので、そういった場合は、ノート等でやりとりをしているということです。時間等の関係もありますので、状況に応じてベストな方法で連携を図っていく必要があると考えています。
委員	やはり対面の場合は伝わり方が、違うでしょうね。学校でいじめや虐待の案件があったときに USB に記録を入れて関係者が見ることができるようにした時期がありました。それをして伝わり方が違うと思います。実際にやっていただけるともっと効果が上がるので、そういう意味での適格ということがわかりました。
委員	「支援体制の整備及び充実」について、5 年度の取組の特徴を教えてください。
係長	特別な支援を要するお子さんも増えてきていますので、前年度のうちにヒアリングをして、優先度の高いところから配置をしております。また、支援員が不足している状況で、切れ目をつくらないっていうことを大事にしながら、切れ目なく配置するというところに尽力しました。
評価	委員会評価 A
施策 4	豊かな心の育成
委員	いじめ等早期対応が必要な事案に対する個別教育相談実施率が 100% ですが、何件ぐらいありましたか。
係長	具体的な件数は、後日お答えします。アンケートを実施した際に、悩みを持っているっていう子や、自分がその時にいじめられているなどの記入をした子に対しては、プライベートは守りながら、早期対応をするように、昨年度以前から継続してやっています。

委員	QUは何月に実施していますか。
係長	6月と10月の2回です。
委員	対象が中学校だと思いますが、小学校の高学年も大分人間関係が多様化して悩んでいる子とか不登校につながりそうな子とかいるので、やれるといいと思いつながら現場にいましたが、その点はどうでしょうか。
係長	昨年までQUを使っていましたが、今年からアセスというものを使うようになり、小学校高学年も使えるということで、今年から使っていたるように、案内をしています。
委員	見方や活用の仕方を学校のほうに教えていただくとありがたいと思います。
委員	中学校に上がるときに合併などもあり中学生の不登校が多いことに対する対策はされていますか。
係長	<p>不登校児童生徒については、コロナ禍を経て、全国でも人数が大変多くなっているというニュース等でも言われていますが、瑞浪市においても、例えば令和4年度から令和5年度については、人数としては増えています。しかし、全国ほど大きな増え率ではなく、比較的緩やかに増えています。</p> <p>現在、瑞浪市では、各中学校区に1名ずつ、支援員を配置して校内教育支援センターというものを設置しています。校外教育支援センターにこぶし教室がありますが、それに加えて学校の中に、各中学校区に1名支援員を置いて活用できるようにしていますので、なかなか教室には行けないが、学校には行ける子については利用することができます。また、学校自体に行きにくい場合については、校外支援センターを利用するお子さんがいます。</p> <p>そもそも、不登校にまずはならないように、未然防止の段階が大事ですので、若い教師も多い中、各校での研修、様々な生徒指導の研修等で未然防止について、若い先生方も学べるように進めています。</p>
委員	成果はどうですか。
係長	<p>人数としては横ばい状態ではあると思っております。</p> <p>具体的な事例としては、校外教育支援センターと校内教育支援センターを連携させることによって、学校に行くとどうしてもおなかが痛くなってしまう、トイレに籠ってしまうという状況が続いたお子さんは、いろいろ話した中で、こぶし教室に通うようになり、月曜日から木曜日まではこぶし教室に行き、金曜日は学校に行くと自分で決めて、大体9か月、自分で決めた生活を行うことができ、この3月に卒業し、</p>

	高等学校へ進学しました。また、逆に学校に行かないと、自分だけ学校に行けないっていうことに罪悪感を持つお子さんもみえて、そういう場合については、校内教育支援センターが有効に働いた事例もあります。
委員	成果は出るとということでよろしいですね。
係長	はい。
委員	瑞浪市は東濃の他市と比べても、全く学校に来られない子やこぶし教室にも行けないという子が極めて少ないところも成果として挙げられると思います。
評価	委員会評価 A
施策5	健やかな体づくりと食育の推進
委員	どの項目もよくやっているといます。 体力テスト結果は、全国、他校と比較しての向上なのか、瑞浪市の体力が良くなっているということかどちらですか。また、中学校の部活が、5年くらい前から急激に少なくなり、ほとんどやらない状況ですが、このことにおける体力の低下はありませんか。
係長	結果は、県の平均との比較になります。 4年度から5年度にかけては、子どもたちの結果そのものもよくなっています。4年度の途中ぐらいからコロナで抑制されていた運動も良いというふうな動きになったので、4年度の後半ぐらいからの取組がこの5年度の結果につながったと考えています。 中学生の体力については、コロナ禍以前、部活動の地域クラブ化の動きが始まる以前との数字の比較をしていないので、一度確認をし、明日、ご報告します。
委員	体力テストの結果のところで目標が60%以上ということで、多分前年度が比較して上げようということで51.8%だったのを60%にしようというのが一つの設定かと思いますが、今年79.3%ということは、来年は80%とか85%にするということですか。
係長	上げる予定はありません。
委員	もっと上げてもいいのではないですか。
係長	5年度が間違いかと思うくらいの驚きの良さでした。
委員	安心安全な給食ということでよくやってくれています。 アレルギーについては、誤って食べてしまったとか、今までアレルギーはなかったはずなのに昼休み遊んだら出たとか、救急車呼んだとい

	うことがあるので、今後も、給食センターの運営委員会が兼ねてアレルギー対策委員会ということだったと思いますが、学校のほうの要望も入れながら検討していただきたいと思います。
委員	私たちは、給食が当たり前にあって当たり前に出てくるという感覚ではないかと思いますが、給食センターの意気込みを聞かせ願います。
係長	毎日提供できるのが当たり前と皆さん思っていらっしゃるので、とにかく必ず毎日安定供給することが当然だともちらも思っています。設備の老朽化が進んでいるので、その不具合もたくさん出ていて、令和5年度は、冷蔵庫の更新や調理場内の古い設備を修理を行い、毎日、皆さんに安全で安心できる給食を供給できるようにしていきたいと思っています。
委員	子どもの食の安全を確保するために費用面が課題となっているのではなく、費用面が課題となったことのほうが課題ではないかなと、子どものためにもっと市は、お金を出して食の安全を確保するべきだと思います。
評価	委員会評価 A
施策6	幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携の強化
委員	「学校だよりの地域での回覧」の地域は何を指しますか。 小中学校もやってないところがあったと思います。ほとんどの保護者がスマホを持っているので紙で渡さず、小学校でも幼稚園と同じように保護者にもスマホのみのところがあります。それに対して保護者からの苦情もなく、その方が良く見るという肯定的な意見も出ていますのでそれでいいと思います。回覧板で回すのはなかなか大変なことだと現場では思っています。
係長	文化センターや各コミュニティーセンターに掲示していただいています。
委員	回覧板で回すということではないですね。
係長	はい。
委員	どこの学校も学校報をインターネットで誰でも見えますか。
係長	ホームページに掲載しています。
委員	地域の方も見られますか。
係長	はい。誰でも見られます。
委員	パスワードはいりませんか。

委員	はい。そのかわり個人名は抜くようにしています。
委員	写真が入っていますよね。
委員	個人が特定しにくいものになっていると思います。
委員	パスワードを必要とする市もあります。
委員	この文章を見ると教育委員会側はしっかりやっているが、子育て支援課はやっていないと捉えられかねませんが、文章を直すことはできませんか。 すべての園、学校でやっているということでしょうか。
係長	はい。全小中学校で 12 回以上の学校だよりは発行し、文化センターやコミュニティーセンターに送付しています。幼稚園は、紙ベースではありませんが、毎月園だよりをコドモンで配信しています。小中学校のホームページには学校報が掲載されています。
委員	幼稚園のデジタル化は大きな働き方改革と聞いているので、項目を見直すといいと思います。
評価	委員会評価 A
施策 7	幼稚園・学校の職員の資質向上
委員	瑞浪市の教員、学校教育については、研究発表や研修等についても教育委員会や学校は本当に努力していただいている、一定の質が保たれており、ありがたいと思っています。 そういう中でも力にそれぞれ差があるので難しいかなということあって、現実、勤務時間内でベテランの教員であれば、教材研究から何とかやり遂げて帰ることができると思いますが、仮に初任者が勤務時間内で全てやることは実質不可能です。 そういう中で、過度にならない程度に超過勤務が増えることはやむを得ないことだと思いますが、これを例えば A と評価してしまうと、できているということになってしまうので、実質それは難しいことなんで、やっぱり B という評価において、学校現場が難しいということをアピールすべきだと思います。
委員	時間外勤務の平均が 45 時間以下の割合が 75%ということでしたが、幼小中で傾向が違いますか。
係長	幼は今わかりませんが、小中では、やや小の方が多いです。
委員	バスの関係で、子どもが早く来る学校があるので、それだけでも 40 分、50 分の超勤になり、その辺での学校差もあり、小学校の方が多いかと思っています。中学は朝部活もなくなっている、その辺の何か物理的

	な、どこで削るかというところも、市の方で一緒に考えていけるといいと思いました。
委員	45 時間以下が 75%で、25%というとは 4 人 1 人は超えているということですね。
係長	はい。
委員	市ですと、災害があつて、どうしても仕事しないといけないとか、選挙があつて、そのために時間を超えてしまうということがありますが、先生のほうにはそういう何か特殊な事情で増えることがありますか。また、経験年数によって超過勤務の統計をとられたことはありますか。
係長	特に指定されて残ることはありません。警報時も残らなくて良くなりました。
委員	特殊な事情によって、超過勤務が増えることがないかを聞いています。あと、経験年数、スキルによる超過勤務の統計をとられた方がよいと思います。
係長	統計は取っていませんので、調べてみたいと思います。
評価	委員会評価 B
施策 8	学校環境等整備・充実
委員	トイレの乾式化とは、どのようなものですか。
係長	昔のトイレの床は、1 段下がった状態で水を流してデッキブラシをかけるものでしたが、今は、フラットな状態でモップなどを使って拭き掃除する乾いた状態のトイレです。
委員	トイレの改修は、子どもたちにとって本当にありがたいことでした。また、夏休みを中心に、綿密に計画を立て、できる限り子どもたちへの影響が最小限になるように進めていただき、ありがたかったです。今年もたくさん控えていますので、よろしくお願いします。 ICM 通信をなかなか読む時間がありませんが、見ることを癖にすると教育長さんの教育に対する熱い思いや喫緊の課題についての思いがあったり、昨年度は中学校の合唱祭の様子が見られ、送り出した子どもたちがこんなに一生懸命歌っているというのが分かったりしました。今後もそういう交流や研究授業の交流などを通信のほうで、市内全体に広げられるといいと思っています。
評価	委員会評価 A

施策1	多様な世代に対応した生涯学習の内容の充実
委員	公民館講座等延べ参加者数について、確かにコロナ前は15,538人であったけれど、コロナが本当に社会を変えてしまい、コロナ禍前に戻すには1年ではなく、もっと長いスパンで見ないともう戻ってこないのと思いますので、そもそも目標数値に問題があるんじゃないかなと思います。 また、公民館館長会・担当者会開催回数についても、公民館館長をしていて8回も必要感じていません。内容的に見れば、A評価でもいいと思います。
委員	目標は、目標として立てたので軽々しく変えられるものではないし、無理だったからもっと低くてよかったということでA評価にするべきではなく、「おおむね順調に達成している」がBなので、十分B評価でいいと思います。
委員	図書館と学校との連携について具体的に教えてください。
係長	図書館ボランティアの読み聞かせや、ブックトークなどで連携しています。
委員	ブックトークもコロナでなくなり、少しずつはじまってきたところなので、復活できるといいと思っています。
委員	公民館講座等延べ参加者数は、確かに目標を下回っていますが、7,770人の数値を出すための職員の努力を見てきています。公民館館長会・担当者会にしても、この4回が非常に充実したものであり、A評価としたいと思います。
委員	どちらの意見もよくわかります。今年度はどう判断するはという問題もありますが、人口がかなり減ってきている状態で、来年度は数値を見直すつもりがありますか。
課長	市長部局移管部分については、来年度の点検評価の対象ではありません。
評価	委員会評価 B
施策2	地域での子育てに係る学習環境の整備
委員	数値目標を達成できていないためB評価にすることになると思います。
委員	保護者の学習内容の充実ということで、重点取組目標になっています。特に、ここが特徴だということところあったら教えてください。
係長	少しでも参加ができるようにというところの周知は努力をしています

	が、なかなか結果としてでてこないところがあると感じております。
委員	B 評価は「おおむね順調に達成している」なので十分認めているし、本当努力されているので、それも含めて、おおむね順調にやっただいているという評価ですので、誤解のないようしてください。
委員	2年間の参加者数平均が96人だったものが323人まで増えたということは、非常に評価していいと思います。
評価	委員会評価 B
施策3	高齢者の活躍の場づくり
係長	地域の高齢者と子どもの交流を図る事業開催数の達成状況を12事業から10事業に、評価を△に訂正をお願いします。
委員	高齢者学級はどのようなものですか。
係長	各地区に寿大学という大学があります。名前はそれぞれの各地区で違いますが、各地区の高齢者の方々が、公民館の方と相談をしているいろいろな事業をしています。講師の方を呼んで講演会をされたりすることもありますし、学習会という形でバスを借りて外に学習に行くなど、各地区のほうでいろいろな事業をやっていますので、多少各地区によって違います。
委員	地区によって盛んなところと、そうでないところの状況の違いはありますか。
係長	各公民館の職員の方の努力もあり、高齢者の方も出席をするように頑張ってきてみえます。人数の違いがあるかと思いますが、大体毎月1回ぐらいや、年に結構な回数学習会を開催してみえると思いますので、それぞれ皆さんやってみえると思います。
委員	クラブ活動も入っていますか。
係長	入っています。
委員	若い方より高齢者の方のほうが、このような場を求めていると思います。移動手段が課題ということですが、何か考えられていますか。
係長	今まで歩いて来られた方が歩いて来られなくなったり、バスの時刻表が合わなかったり、体調の関係もあったりして実際には来たいが来られない方もあると聞いています。
委員	何か他の手段があるといいと思います。
係長	そのためにタクシーを使うなどはなかなか難しく、課題と思っています。

委員	高齢者は増えるが、寿大学の参加者が減ってきていると聞きました。地区ごとに特色を持って取り組んでみえると思いますが、参加状況や雰囲気が違うと思います。名前が変わっただけで中身は昔から変わらなくて参加者が増えず、減っていくばかりという問題があると思います。中身によって、参加する意欲が違ってくると思っています。
評価	委員会評価 B
施策 4	公民館・図書館等による人材発掘と育成
委員	図書館ボランティアの育成を重点取組事業にした理由は何ですか。
係長	4年度は、ボランティアの講座を開催することができませんでしたが、県の出前講座の講師を利用活用ができるということで、そちらの講師の方にお越し頂いて講座ができるようにということで5年度については2回開催することができました。
評価	委員会評価 A
委員	評価について全部○だからA評価ということではないと思います。そこは私たちが点検評価委員として精査して、だけど、B評価ということはありうるし、やはり内容で見たい、ただあくまで目標を立ててやってみえて△となった訳で、決してそれを評価しないということではなく、そういう努力はよく分かりますし、頑張っていたので、Bの評価が低いと捉えていません。それで十分だと思っています。
委員	確かに言われていることはよく分かります。ただ、直に担当職員と接している中で、目標には達してないけども、1年をかけて本当に一生懸命頑張っている姿というのを評価させていただきたいということで、色々な立場で意見を言って、みんなで決めればよいと思っています。